

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要票

作成日 平成 20 年 11 月 14 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670101512
法人名	医療法人 川内内科
事業所名	グループホーム松の実
所在地	徳島県徳島市名東町3丁目15番地 (電話) 088-633-6681

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 14 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 25 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤:12人、非常勤:3人、常勤換算:亀ユニット7.2人 鶴ユニット6.8人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	2 階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	高熱水費:12,000円、その他:実費	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 25 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 川内内科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の菜園では利用者と職員が一緒に大根や白菜、蕪、葱などを育てている。2階にあるグループホームは玄関前に手作りの暖簾が掛かっている。居室の前にも手作りの暖簾が掛けられていて、利用者の顔写真や似顔絵が表札替わりにつけられている。また利用者と共に作った大きなカレンダーが壁面に飾られていて、日付の確認や季節の認識に役立っている。洗濯物干しはできる範囲で利用者が職員と共にいき、乾いた洗濯物はソファやホットカーペットの上で会話を楽しみながら各自でたたんでいる。職員は日中、オムツをしないケアに取り組んでいる。「自由・安心・快適」といった理念にそった支援が実践され、利用者の表情は安心感に満ちている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①「地域との付き合い」については地域活動の情報を得て積極的に参加することを通して理解が深められている。②「市町村との連携」については運営方針や課題についての協議が行われるよう努めている。③「同業者との交流を通じた向上」についてはグループホーム協会への加入によって研修に参加するなど、交流が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の目的と意義を全職員が理解している。自己評価は全職員が個別に記入したもものについて協議し、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員等により構成されている。会議では地域密着型サービスの意義・現況報告・防災・自己評価及び外部評価とその改善点などについて積極的に討議し、サービスの質の向上や地域の理解に繋げている。会議録には職員の回覧印・サインがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置したり、外部の苦情相談窓口を明示するなどしている。また家族の面会時には気軽に意見を言える雰囲気づくりを心がけ、苦情などには速やかに対応している。また利用者一人ひとりの健康状態や生活状況を記載した写真付きの便りを「松の実新聞」と一緒に毎月送付している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を通じて近隣の防災マニュアルづくりを計画している。招待された小学校の運動会では幼児の競技でグループホームの利用者が景品を渡す役割を務めるなど楽しく参加している。また地域の秋祭りやバザーに出かけた時には、昔馴染みの人たちに囲まれて懐かしい話を楽しむなど、地域の一員としての交流が積極的に図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い、地域の中で「自由・安心・快適」な生活を送れるための支援を継続することを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者や職員間で共有し、日々の業務の中で実践されている。また玄関や共有スペースへの掲示、パンフレットや「松の実新聞」への記載によって広く周知されるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じて近隣の防災マニュアルづくりを計画している。招待された小学校の運動会では幼児の競技でグループホームの利用者が景品を渡す役割を務めるなど楽しく参加している。また地域の秋祭りやバザーに出かけた時には、昔馴染みの人たちに囲まれて懐かしい話を楽しむなど、地域の一員としての交流が積極的に図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的と意義を全職員が理解している。自己評価は全職員が個別に記入したものについて協議し、管理者が集約している。前回外部評価の課題についても真摯に受け止めて職員会議で検討し、サービスの改善・質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員等により構成されている。会議では地域密着型サービスの意義・現況報告・防災・自己評価及び外部評価とその改善点などについて積極的に討議し、サービスの質の向上や地域の理解に繋げている。会議録には職員の回覧印・サインがある。しかし開催頻度は3か月に1回となっている。	○	運営推進会議は2か月に1回開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入退居や現況報告の提出時などに、市町村担当者と事業所の実情や課題について相談したり意見交換するなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの健康状態や生活状況を記載した写真付きの便りを「松の実新聞」と一緒に毎月送付している。金銭出納帳には家族の確認印・サインがある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、外部の苦情相談窓口を明示するなどしている。また家族の面会時には気軽に意見を言える雰囲気づくりを心がけている。出された意見や苦情などは職員会議で協議し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとに固定職員を配置し、馴染みの職員による支援が行われている。異動や離職はほとんどなく、新規採用者に対しては、利用者や職員と一緒にホームの様子を伝えるなどしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会の実施や職員の希望を重視した資格取得に向けた研修会への参加など、積極的に取り組んでいる。研修報告書は全職員で回覧し、重要事項については勉強会でも学ぶ機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修会へ積極的に参加し同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族と十分話し合い、事業所を見学してもらったり、ひととき入居者と一緒に過ごしてもらうなど、馴染みの関係をつくりながらサービスの開始へと繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から料理の味付けを教わるなど、共に学び支え合う関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの日常の言動や表情から思いを見出し、希望や意向にそって本人本位の支援を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、関係者の意見を反映してケアカンファレンスを行い、本人本位の計画を作成している。計画書には本人・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた見直しを行っている。また状態の変化等に伴う見直しも、関係者間での話し合いに基づいて適宜行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による日常の健康管理や受診など利用者や家族の希望にそった支援が行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を尊重し、希望するかかりつけ医への受診を支援している。必要に応じて往診も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や終末期に向けた方針について話し合い、関係者間で共有している。また家族などが宿泊して付き添える用意もある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した関わりが行われ、排泄介助時などにはさりげない対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にそって散歩や買い物などの過ごし方を考えるなど、一人ひとりのペースにそった支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と日曜日の夕食は利用者の希望にそったメニューがユニット毎に提供されている。買い物・準備・片付けは利用者一人ひとりの能力に応じて分担し、職員も同じテーブルで会話を楽しみながら和気あいあいと食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望にそった支援が行われている。入浴を嫌がる利用者には職員が交代で声をかけたり、誘うタイミングを変えるなどして誘導している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、畑仕事や調理の手伝いなど、趣味や得意分野で力を発揮できるよう支援している。また授産センターから簡単な内職を紹介してもらい、得られたお小遣いを使うことを楽しめるような支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩を楽しんだり、買い物やドライブに行くなど積極的に外出を支援している。弁当持参で遠足に出かける事もある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけずに自由に暮らせるよう支援している。精神的に落ち着かない利用者は、散歩やドライブに誘い一緒に過ごすなどして気分転換を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防団・町内会・民生委員等の協力を得て、地域防災マニュアルを作成中である。消防署の指導で避難訓練を実施したり、関連施設間で防災委員会を立ち上げ、備蓄物の確保にも取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者の咀嚼・嚥下の能力に応じた支援を行い、摂取量は記録されている。献立は法人の管理栄養士の指導により栄養バランスに配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居室の入口の暖簾、壁面にある布製のカレンダー、食卓のランチョンマットは利用者の手作りで、家庭の温かさが感じられる。居間には電気カーペットやソファが置かれ、テレビを見たり新聞や雑誌を読んだり、談笑しながらくつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小鉢で花を育てる方や、使い込まれた机で読み書きや裁縫をされる方もいる。また、居室には使い慣れた家具や寝具が置かれ、居心地よく過ごせる工夫がされている。		